

若田飛行士の NASA（米国航空宇宙局）/ISS（国際宇宙ステーション）
運用ブランチチーフ就任について

平成22(2010)年2月24日
宇宙航空研究開発機構
有人宇宙環境利用ミッション本部

1. 報告事項

本年3月1日より約1年間、若田飛行士が NASA（米国航空宇宙局）宇宙飛行士室 ISS（国際宇宙ステーション）運用ブランチチーフに就任することとなったので報告する。

2. NASA 宇宙飛行士室におけるブランチチーフの役割

- (1) NASA 宇宙飛行士室に在籍する米国および外国の飛行士は、宇宙飛行士活動に関連する 12 のブランチの何れかに属し、夫々に割り当てられた業務に従事する（添付図）。
- (2) 各ブランチには 10 名から 30 名程度の飛行士が所属し、そのチーフはブランチの活動を取り纏め、NASA 宇宙飛行士室の業務の円滑化を図っている。

3. ISS 運用ブランチについて

ISS 運用ブランチには約 30 名の飛行士が所属し以下の業務を担当している。

- (1) 訓練に係る業務：
 - 訓練計画の立案、訓練スケジュールの管理
 - 訓練評価、結果に問題があればその対策立案と実施（補習訓練など）
 - 国際間の訓練会議に出席。
- (2) 軌道上滞在に係る業務：
 - クルーに関連する軌道上不具合への対策構築
 - クルー作業状況をモニターして問題があればその対策構築
- (3) 帰還後に係る業務
 - 技術デブリーフィングの日程調整
 - 帰還後のクルーの業務管理（過剰業務の回避）

4. ブランチチーフ就任の背景

- (1) NASA/JSC に派遣されている JAXA 宇宙飛行士は、ISS 搭乗員支援協定（ISS Crew Support Agreement）に基づき、基礎訓練や維持向上訓練（T-38 飛行訓練、語学訓練、極限環境訓練等）を行っている。

- (2) その訓練の一環として、「Collateral Duty ; 付随的な業務」を行うこととなっており、上記の 12 の業務の何れかに従事することが求められている。
- (3) なお、業務の実施の際に不測の事態が発生した場合、上記協定にクロスウェバー条項が規定されており、免責となる。
- (4) 外国人飛行士であっても適性（マネージメント能力、リーダーシップ、人格）が認められれば、ブランチチーフになれる。過去にカナダ宇宙飛行士 C. Hatfield がロボットブランチのチーフとなった例などがある。

以上



ASTRONAUT OFFICE

